

公的年金シミュレーターの利用状況について

厚生労働省年金局総務課年金広報企画室

Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan

公的年金シミュレーターの概要



例えばこんなシミュレーションも可能です！

働き方・暮らし方の入力

働き方・暮らし方①

働き方・暮らし方 ?

自営業・フリーランス (国民年金第1号)	会社員・公務員 (厚生年金)
パート・アルバイト (国民年金第1号)	パート・アルバイト (厚生年金)
配偶者の扶養 (国民年金第3号)	学生・働いていない (国民年金第1号)

期間 ?

45 歳 ~ 59 歳まで



現在、35 歳で、配偶者の扶養の範囲内で働いていますが、今後、扶養を外れて働くと年金はどう変わりますか？



60 歳から 65 歳まで会社員として働いた後、67 歳までパートとして働いたら、年金はどれくらい増えますか？

公的年金シミュレーターの特徴

簡単にスムーズな操作性

ID・パスワードの取得不要
「ねんきん定期便」の二次元コードを読み込むことで、過去の加入記録の入力が不要で手軽に試算できる



グラフを表示しながら試算できる

デザイン性が高く操作性の良い試算画面
スライダーを動かすことで、年金額の変化が一目で確認できる



働き方・暮らし方に応じたシミュレーション

これからの働き方・暮らし方の変化

- ・ 就職、転職したとき
- ・ 配偶者の被扶養者となったとき
- ・ 退職した後、年金を受給しながら働くとき

にあわせて様々なシミュレーションができる



働き方・暮らし方の入力

働き方・暮らし方①

働き方・暮らし方②

自営業・フリーランス (国民年金第1号)	会社員・公務員 (厚生年金)
パート・アルバイト (国民年金第1号)	パート・アルバイト (厚生年金)
配偶者の扶養 (国民年金第3号)	学生・働いていない (国民年金第1号)

期間: 46 歳 ~ 59 歳まで

年取: 537 万円

その他

個人情報記録されず、画面を閉じると、データは消去されるため、安心して利用できる

税・社会保険料額の試算機能を搭載予定

税・社会保険料額試算の画面イメージ

所得税	0 万円/年
介護保険料	8 万円/年
国民健康保険料 (税)	3 万円/年
個人住民税	1 万円/年
合計	12 万円/年

※ 個々人の状況や自治体によって異なります

※画面は開発中のもの。

令和5年度のメディア掲載・業界団体を通じた周知の取り組み

メディアの掲載実績

■ 令和4年度の掲載状況

- 公的年金シミュレーターの使い方・特徴、開発にかかる経緯等に関する記事が、雑誌、新聞、WEBメディア等に掲載された。

雑誌：日経トレンディ、婦人公論 等

新聞：読売新聞、朝日新聞、日経新聞 等

WEB：東証マネ部、フィナンシャルフィールド 等

■ 令和5年度の取り組み

- 各種メディアへの掲載により、様々な属性の読者が公的年金シミュレーターの使い方・特徴などを知り、自身のねんきん定期便を開封して二次元コードから公的年金シミュレーターにアクセスし、試算することが期待される。
- 公的年金シミュレーターの年金額改定や税額試算機能をリリースするタイミングにおいて、各種メディアに機能の使い方・有用性が掲載されるよう、積極的な周知・広報活動を実施する。

民間企業を通じた周知

■ 生命保険協会で活用されている

- 一般社団法人生命保険協会では、公的年金制度に関して情報提供を行うためのお客様向けチラシを作成しており、その中で公的年金シミュレーターの紹介を行っている。
- 併せて、生命保険の募集人向けに、お客様向けチラシの解説資料を作成しており、その中で募集人に対して公的年金シミュレーターの使い方を説明している。

■ 令和5年度の取り組み

- 令和5年度において、公的年金シミュレーターの年金額改定や税額試算機能のリリースに伴い、これまで以上に公的年金の受給見込み額を踏まえた民間保険の提案が行われることが期待される。
- 公的年金シミュレーターの機能追加をタイミングを踏まえ、民間企業を通じて公的年金シミュレーターの利用を促すための情報提供を検討する。

(参考) 一般社団法人生命保険協会の取り組み

■ お客様向けご案内チラシ

老後に向けた資産形成をご検討中のお客さまへ
～老後の生活を支える公的年金制度(老齢年金)について～

公的年金制度に加入している人が、一定の年齢になった場合には、老齢年金を受け取ることが出来ます。老後に備えるためには、まず、ご自身が受け取ることのできる老齢年金の金額について把握した上で、老後生活に必要な費用に照らして、不足する資金を計画的に準備する必要があります。

1 老齢年金の仕組み

日本に住む20歳以上60歳未満のすべての方が加入する国民年金から、「老齢基礎年金」が受け取れます。会社員・公務員等は、この老齢基礎年金に上乗せする形で厚生年金から、「老齢厚生年金」が受け取れます。

老齢厚生年金		老齢基礎年金	
受給対象者	自営業者 (学生・無職の方も含む)	会社員・公務員等	会社員・公務員等の 被扶養配偶者(専業主婦等)

2 受け取るための条件/受取年金額

- 老齢基礎年金を受け取るためには、国民年金に最低10年間加入している必要があります(ただし、国民年金保険料の免除や猶予の制度があります)。受け取ることが出来る年金額は、40年加入の満額が777,800円/年(月あたり約65,000円)です(加入期間や、年金の繰上げ・繰下げ受給等により変わります)。
- 老齢厚生年金を受け取るためには、老齢基礎年金の受給資格を満たすことなどがが必要です。受け取ることが出来る年金額は、加入期間や、在職中の平均標準報酬額(賞与含む)で個人差があります。

3 老後の生活について

65歳の平均余命 下記表の通り、65歳の方の平均的な老後期間は20年以上あります。(注1)

65歳の平均余命		65歳の平均余命	
男性	2020年	約20.0年	85.0歳
女性	2020年	約24.9年	89.9歳

平均的な老齢年金 (注2)

会社員 専業主婦	老齢厚生年金 月額約14.6万円 (老齢基礎年金含む)	ご夫婦2人で 月額約20万円
	老齢基礎年金 月額約5.6万円	

平均的な老後生活費(夫婦二人世帯の例)

平均的な老後生活費(注3) 月額約25.5万円	ゆとりある老後を送るために必要と考える生活費(注4) 月額約36.1万円
----------------------------	-----------------------------------------

- 上記は平均値であり、受給開始年齢も人によって異なるため、ご自身(ご夫婦)の受取年金想定額と、思い描く老後生活に必要な費用を踏まえ、生活資金がいくら不足するのか試算することが大事です。
- 試算に当たっては生命保険会社等で試算ツールを用意している場合があります。また、受取年金額の試算については、厚生労働省が提供している「公的年金シミュレーター」も利用できます(ツールの詳細は厚生労働省のチラシ(注5)をご参照ください)。

(注1) 厚生労働省「簡易生命表」(令和2年)に基づき当会にて作成
(注2) 厚生労働省「令和2年度 厚生年金保険・国民年金事業の概況」に基づき当会にて作成
(注3) 総務省統計局「家計調査年報(家計収支編) 令和2年(2020年)」に基づき当会にて作成
(注4) 公益財団法人生命保険文化センター「令和元年 生活保障に関する調査」
(注5) 厚生労働省「公的年金シミュレーター 使い方ホームページ」

○記載の内容は、令和4年4月現在の制度によります(令和4年度価格)。今後、制度の変更に伴い、記載の内容が変わることがあります。

NEW!
公的年金シミュレーター

「ねんきん定期便」の二次元コードをスキャンして試算可能

「働き方・暮らし方」の変化に応じて将来受け取る年金額を試算できる

公的年金の「見える化」で、こんなご疑問にお答えします。

- 30代・女性** 働き方を変えると、将来受け取る年金額はどれくらい変化するの?
- 40代・男性** 将来の年金額が簡単な操作でパッと知りたい。
- 50代・男性** ID・パスワードを入力せず年金額を試算したい。

公的年金シミュレーター 使い方HP
https://www.mhlw.go.jp/stf/kouteki_nenkin_simulator.html

4つのステップで分かる! 公的年金シミュレーター

- 基本操作 -

STEP-1 アクセス方法
「ねんきん定期便」の二次元コードをスマートフォンから読み込む

STEP-2 生年月日を入力し、「試算する」をタップ
生年月日を入力!
「試算する」をタップ!

STEP-3 年金見込み額の表示
将来受給可能な年金見込み額がグラフで表示されます。
※スライドバーを操作して、年金の受取り開始時期等を簡単に変更できます。
※画面に入力された年金の加入状況により、操作できるスライドバーが異なります。

STEP-4 ライフプランに応じたシミュレーション
これからの働き方・暮らし方を入力して、様々なライフプランに応じた年金額を試算できます。

【公的年金シミュレーターに関するご留意点】
公的年金シミュレーターは、働き方・暮らし方の変化に応じて将来受給可能な年金額を簡単に試算できるツールとして、厚生労働省が開発したものです。
簡単に試算することを目指しており、実際の年金額とは必ずしも一致しません。試算条件によって年金額が過大・過小に算出される場合があります。より正確な年金見込み額の確認をする場合には日本年金機構の「ねんきんネット」をご利用ください。

(注1) 厚生労働省「簡易生命表」(令和2年)に基づき当会にて作成
(注2) 厚生労働省「令和2年度 厚生年金保険・国民年金事業の概況」に基づき当会にて作成
(注3) 総務省統計局「家計調査年報(家計収支編) 令和2年(2020年)」に基づき当会にて作成
(注4) 公益財団法人生命保険文化センター「令和元年 生活保障に関する調査」
(注5) 厚生労働省「公的年金シミュレーター 使い方ホームページ」

一般社団法人
生命保険協会
令和4年7月新規

【出典】一般社団法人生命保険協会「公的年金制度(老齢年金制度)について」
<https://www.seiho.or.jp/data/billboard/pension/>

(参考) 一般社団法人生命保険協会の取り組み

■ 生命保険会社・代理店の募集人向け解説資料

老後にに向けた資産形成をご検討中のお客さまへ

～老後の生活を支える公的年金制度（老齢年金）について～

公的年金制度に加入している人が、一定の年齢になった場合には、老齢年金を受け取ることができます。老後に備えるためには、まず、ご自身が受け取ることのできる老齢年金の金額について把握した上で、老後生活に要する費用に照らして、不足する資金を計画的に準備する必要があります。

1 老齢年金の仕組み

日本に住む20歳以上60歳未満のすべての方が加入する国民年金から、「老齢基礎年金」が受け取れます。会社員・公務員等は、この老齢基礎年金に上乗せする形で厚生年金から、「老齢厚生年金」が受け取れます。

老齢厚生年金		老齢基礎年金	
受給対象者	自営業者 (学生・無職の方も含む)	会社員・公務員等	会社員・公務員等の 被扶養配偶者(専業主婦等)

2 受け取るための条件/受取年金額

- 老齢基礎年金を受け取るためには、国民年金に最低10年間加入している必要があります(ただし、国民年金保険料の免除や猶予の制度があります)。受け取ることのできる年金額は、40年加入の満額で777,800円/年(月あたり約65,000円)です(加入期間や、年金の繰上げ・繰下げ受給等により変わります)。
- 老齢厚生年金を受け取るためには、老齢基礎年金の受給資格を満たすことが必要です。受け取ることのできる年金額は、加入期間や、在職中の平均標準報酬額(賞与を含む)で個人差があります。

3 老後の生活について

65歳の平均余命		65歳の平均余命	
男性	2020年 約20.0年 85.0歳	女性	2020年 約24.9年 89.9歳

下記表の通り、65歳の方の平均的な老後期間は20年以上あります。(注1)

平均的な老齢年金(注2)		平均的な老後生活費(夫婦二人世帯の例)	
会社員	老齢厚生年金 月額約14.6万円 (老齢基礎年金含む)	平均的な老後生活費(注3)	ゆとりある老後を送るために必要と考える生活費(注4)
専業主婦	老齢基礎年金 月額約5.6万円	月額約25.5万円	月額約36.1万円

● 上記は平均値であり、支給開始年齢もによって異なるため、ご自身(ご夫婦)の受取年金額と、思い描く老後生活に要する費用を照らし、生活費がいくらか不足するのが試算することが大前提です。

● 試算に当たっては生命保険会社等で試算ツールを用意している場合があります。また、受取年金額の試算については、厚生労働省が提供している「公的年金シミュレーター」も利用できます(ツールの詳細は厚生労働省のチラシ(注5)をご参照ください)。

(注1) 厚生労働省「健康寿命推定」(令和2年) (注2) 公的年金制度で所得
(注3) 厚生労働省「令和2年度 厚生年金受給額・国民年金受給額の概況」に基づき推定して作成
(注4) 公的年金制度「家計調査年報(家計収支編) 令和2年(2020年)」に基づき推定して作成
(注5) 公的年金制度「公的年金シミュレーター(お問い合わせ)」(注6) 公的年金制度「公的年金シミュレーター(お問い合わせ)」
(注7) 厚生労働省「公的年金シミュレーター(お問い合わせ)」

○記載の内容は、令和4年4月現在の制度に基づき(令和4年度価格)。
今後、制度の変更等に伴い、記載の内容が変わることがあります。

一般社団法人
生命保険協会
令和4年7月新規

～公的年金制度(老齢年金)のワンポイント解説～

1 国民年金の加入対象者(＝被保険者)は、下記の3種類があります。

被保険者の種類	対象者
第1号被保険者	・20歳以上60歳未満の国内在住者(第2号・第3号被保険者以外の全員) (例) 自営業者、農業・漁業従事者、学生、無職の方とその配偶者など
第2号被保険者	・会社員、公務員、教員など ※厚生年金にも同時に加入
第3号被保険者	・第2号被保険者に扶養される20歳以上60歳未満の配偶者

2 国民年金を受け取るための条件について、具体的には下記の通りです。

年金の種類	対象者
国民年金	・支給資格期間(下記期間の合計)が10年以上あること ①国民年金、厚生年金、共済年金の保険料を納付した期間 ②国民年金の免除料を免除された期間 ③学生納付特例、納付猶予を受けた期間 ④任意加入できたのに任意加入しなかった60歳未満の期間など
厚生年金	・老齢基礎年金の受給資格(支給資格期間10年以上)があり、厚生年金の加入期間が1か月以上あること

3 各被保険者が納めなければならない保険料は下記の通りです。

被保険者の種類	対象者
第1号被保険者	・2022(令和4)年度の国民年金保険料は、月額16,590円です ・保険料の納付が難しい場合、「免除」や「猶予」の制度があり、適用を受けている期間は受給資格期間に反映されず(一部、年金額に反映されるものもあります)
第2号被保険者	・厚生年金保険料は月給・賞与の9.15%の額 ※勤務先も同額を負担 ・原則、4～6月の月給の平均額(標準報酬月額)を基に計算した金額を9月から1年間使用し、標準報酬月額は上限65万円、標準賞与額は1回あたり上限150万円です。 ・私立学校の教職員は負担は1.840%です
第3号被保険者	・保険料の負担はありません(配偶者である第2号被保険者が加入している被用者年金制度が毎年度負担しています)

4 お客さまが受け取ることのできる年金額はこれまでの加入履歴・金額等によって様々であり、平均値ではお客さまの実情と乖離している場合があるのが注意が必要です。併せて、お客さまが思い描く老後生活も多様であり、ここで示している生活費の平均値やアンケート調査の結果に基づく金額は、あくまで参考値として説明する必要があります。

5 老後の必要資金を正確に試算するためには、実際にお客さまが受け取ることのできる年金額と、お客さまが思い描く老後生活に必要な費用を正しく試算する必要があります。各保険会社の取扱いに従って、保険会社が提供している試算ツールや厚生労働省の「公的年金シミュレーター」を利用しましょう。

△保険募集時に「将来、国の年金は受け取れるから大丈夫!」年金額は正確なかもしれない!といった、根拠のない情報で不当に不安を煽るようなことは絶対にしてはいけません!」

4つのステップで分かる!

公的年金シミュレーター

- 基本操作 -

STEP-1 アクセス方法

「ねんきん定期便」の二次元コードをスマートフォンから読み込む

STEP-2 生年月日を入力し、「計算する」をタップ

「ねんきん定期便」がなくても、働き方・暮らし方を入力して試算できます。

STEP-3 年金見込み額の表示

将来受給可能な年金見込み額がグラフで表示されます。

STEP-4 ライフプランに応じたシミュレーション

これからの働き方・暮らし方を入力して、様々なライフプランに応じた年金額を試算できます。

1 公的年金シミュレーターに関するご留意点
公的年金シミュレーターは、働き方・暮らし方の変化に応じて将来受給可能な年金額を簡単に試算できるツールとして、厚生労働省が開発したものです。
簡易に試算することを目的としており、実際の年金額とは必ずしも一致しません。
試算条件によって年金額が過大・過小に算出される場合があります。より正確な年金見込み額の確認をする場合は日本年金機構の「ねんきんネット」をご利用ください。

～公的年金シミュレーターのワンポイント解説～

- 公的年金シミュレーターは、簡単に年金額の試算を行うためのツールとして開発されたものであり、被保険者等の個人情報を用いず、また、働き方・暮らし方の入力力は年単位で行うなどの簡素化が図られています。このため、「ねんきんネット」と異なり、特別支給の老齢厚生年金など詳細な試算は行えませんが、手軽に年金額を試算することができます。
- お客さまが個人の過去の加入記録に基づき、より詳細な試算を希望される場合は、「ねんきんネット」をご案内ください。

【参考】ねんきんネットとは?
「ねんきんネット」は、お客さまがインターネットを通じてご自身の年金の情報を確認できる、日本年金機構が提供するサービスです。詳細は日本年金機構のHPを参照ください。
(ねんきんネットHP) <https://www.nenkin.go.jp/n/net/index.html>

- 年金制度への理解を深めて頂くことを目的に、日本年金機構が、毎年誕生日に、お客さま(加入者)の年金記録を記載した「ねんきん定期便」を送っています(今年4月分(4月生まれ)より順次、右下に2次元コードのついた「ねんきん定期便」が送付されます)。なお、「ねんきん定期便」の形式や記載内容は年次によって異なります。

【よくある質問】

Q	A
使い方について詳しく知りたい	厚生労働省の「公的年金シミュレーター使い方ホームページ(試験運用中)」を参照ください。 https://www.mhlw.go.jp/stf/kouteki_nenkin_simulator.html
どのような人を利用対象としているのか	公的年金シミュレーターは、将来受給可能な年金額を手軽に試算したい方を利用対象としており、若年世代をはじめ、幅広い年代の方に利用いただくことを想定しています。なお、年金額の試算の際に入力できる年齢(生年月日)は、16歳から71歳までとなっています。
老齢年金以外の試算はできないのか	試算できるのは、老齢年金(老齢基礎年金・老齢厚生年金)です。その他の障害年金、遺族年金等は試算できません。

【応用編】ライフプランに応じたシミュレーションの方法

＜今後の年収/就労完了年齢/支給開始年齢の変更に基づくシミュレーション＞
・試算画面のグラフ下に表示されている、「今後の年収」「就労完了年齢」「支給開始年齢」を、スライドバーやキーのボタン操作で変更することにより、年金見込み受給額の変化を確認できます。

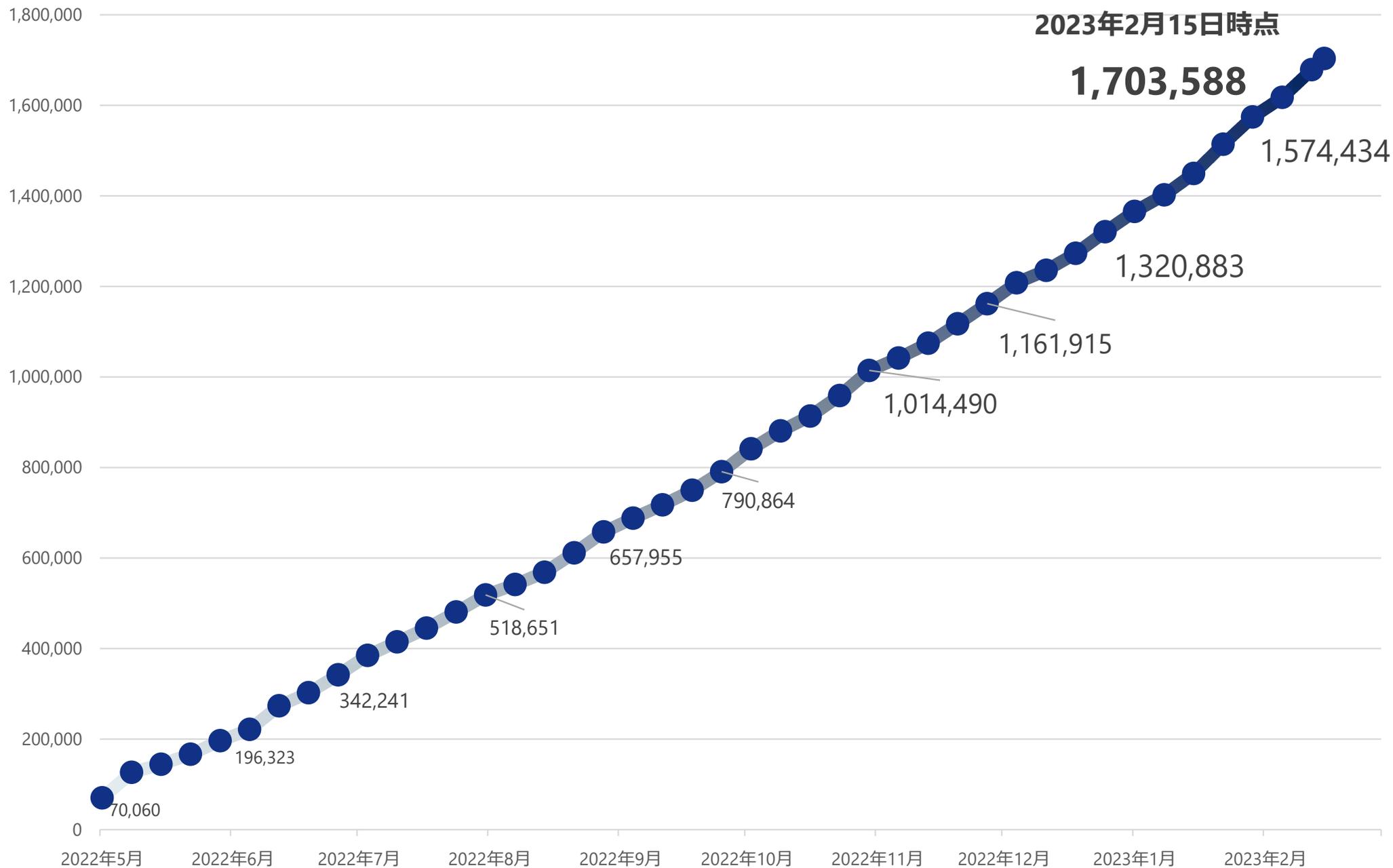
＜働き方・暮らし方の変更に基づくシミュレーション＞
①試算画面のグラフ下の入力部分をスクロールし「働き方・暮らし方の入力欄を開く」ボタンをタップ
②「働き方・暮らし方の追加」をタップし、「働き方・暮らし方」の入力欄で、該当ボタンをタップ
③「開閉」の入力欄に、②で入力した被保険者種類の加入期間を入力
④(国民年金第1号の場合)「付加納付の有無」の入力欄で、該当するボタンをタップ
⑤(厚生年金の場合)「年収」の入力欄に、加入期間の平均年収を入力
⑥(加入資格に変更がある場合)「働き方・暮らし方の追加」のボタンをタップし、変更後の区分ごとに③～⑤のステップを繰り返す
⑦「試算する」をタップ ⇒画面上部のグラフ部分に、年金見込み受給額(年額)が表示されます。
●上記②～⑥の入力内容を変更することで、今後の「働き方・暮らし方」を変更した場合の年金額の変化を試算することができます。

出典：厚生労働省「公的年金シミュレーター使い方ホームページ」をもとに生命保険協会作成
https://www.mhlw.go.jp/stf/kouteki_nenkin_simulator.html

【出典】一般社団法人生命保険協会「公的年金制度(老齢年金制度)について」
<https://www.seiho.or.jp/data/billboard/pension/>

公的年金シミュレーターの利用状況

(アクセス件数)



公的年金シミュレーターのプログラム活用に関する実証実験の概要

- 厚生労働省が公的年金シミュレーターのソースコード（プログラム）を公開し、民間事業者は自社が運営するアプリなどのITサービスに組み込めるかどうか検証を行った。
- 参加企業は、プログラムを組み込むに当たって生じた技術的課題について、厚生労働省に対して報告を行った。
- 厚生労働省は、実証実験の結果を踏まえ、公的年金シミュレーターのプログラムの一般公開に向けた検討を行う。

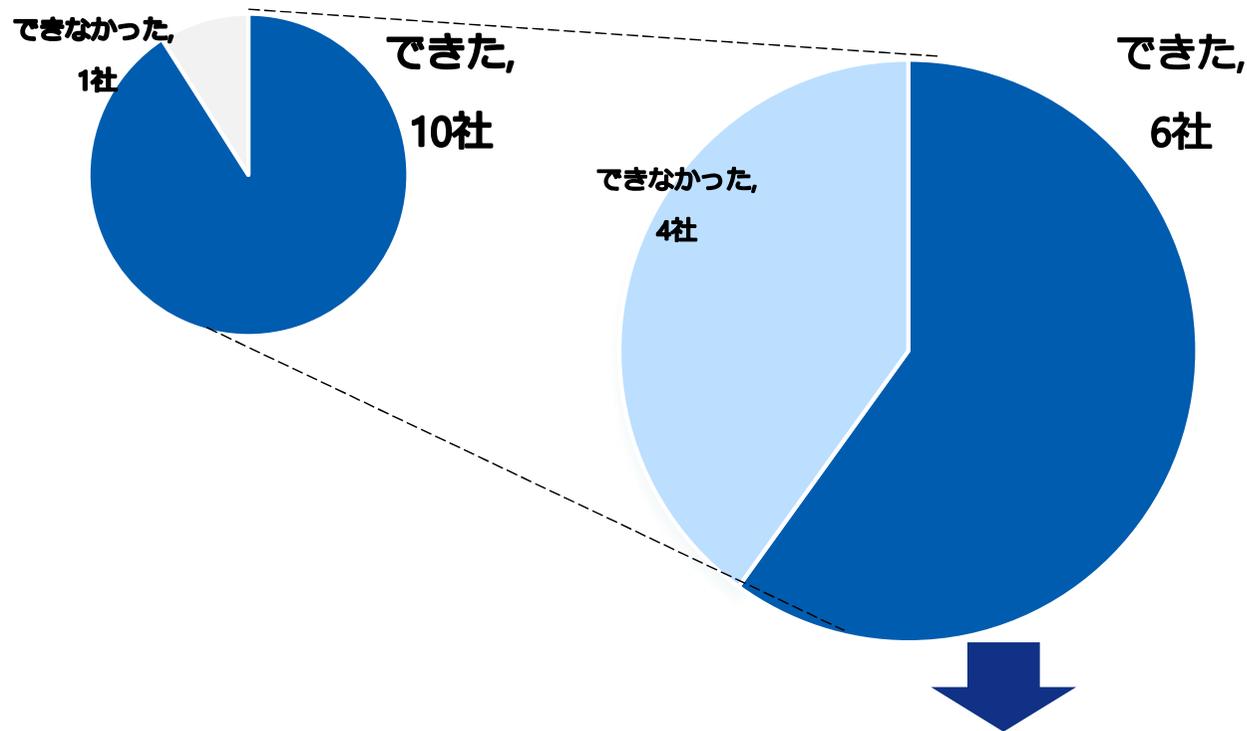


実証実験の結果について

■ 実験参加企業が作成した「成果報告書」の集計結果

プログラムの構造、内容を
解析できたか

プログラムをアプリ等のITサービスに
組み込むことができたか



公的年金シミュレーターの機能を搭載したアプリ等のITサービスのリリースを「予定」「前向きに検討中」とする民間企業が4社あった

■ 今後の方向性

ソースコードを公開することで、民間企業の創意工夫によって、年金額試算機能を組み込んだ独自のITサービスが開発されることが期待される。

また、民間のITサービスの発展に伴い、様々な属性の利用者が年金額試算をすることが期待される。

■ 参加企業からの要望

老齢年金に加えて、遺族年金、障害年金の受給見込み額を試算できる機能が欲しい。

ねんきん定期便と同様の情報を、インターネットを通じて取得する仕組みが欲しい。